



桑田立齋アイヌ種痘之碑

裏面には立齋自筆で『活気満大虚、丹心照千古。桑田立齋』と刻んだ。この詩句は立齋曾孫賀来明子氏所蔵の立齋の遺言書から、署名は相馬の半井宏人氏所蔵の立齋書状などから採った。表面の字は二宮が書いた。側面にはこの建碑の実現に努力された標津・ポー川史跡自然公園・歴史民俗資料館の相田光明氏、深川の網代旭氏、そして碑を制作された小樽の山本照男氏らの名を刻んだ。除幕その他の行事は平成十一年の標津町一二〇周年記念の折りに行われるはずである。

標津町の協力によって碑が建立された「望ヶ丘森林公園」は中標津空港から町に入り海に達する直前の左にある小高い丘で、碑からは立齋巡回の最東端である国後島が見える。この海を一四二年前の九月十一日の嵐の中、立齋は野付半島に渡ってきた。根室、標津一帯で立齋は安政四年に一〇三人のアイヌに種痘をしたが、その三七パーセントが標津のアイヌであった。門人の井上元長が越冬して追加巡回し、結局安政六年

初頭までにこの地のアイヌの八五パーセントに種痘をした。

この驚嘆すべき蝦夷地巡回種痘の壮挙の詳細を含めて桑田立齋の生涯と功業は、初めて発見された立齋の書状や十二人の門人の事跡とともに『桑田立齋先生』(二宮陸雄著、三八四ページ)、顕彰用に十二月制作、『桑田立齋安政四年蝦夷地種痘』(二宮陸雄、秋葉實共著、標津町に寄付し残部なし)に発表した。前者は平成十年十二月に刊行(非売品)したが、研究者用に若干の部数を残すので、希望の方は二宮宛に申し込またい。

桑田立齋先生顕彰会(二宮陸雄、網代旭、秋葉實、賀来明子、山本照男、半井宏人、相田光明、田中美子、日吉恵子)

(二宮 陸雄)

関 寛齋の開拓精神に学ぶ

「寛齋セミナー」開かれる

北海道足寄郡陸別町では開町八十周年を記念して、平成十年十月十五、十六日の両日、陸別町開拓に晩年をささげた医師・関寛齋翁の精神を顕彰し、先駆者としてのチャレンジ精神を学び、寛齋の進取・慈愛の人生を多くの現代人に「生きる指針」として吸収してもらおうという目的の下に、町をあげての「寛齋セミナー」が開催された。

第一日(十五日)

○命日祭・青龍山・寛齋遺跡見学

○講演

「花さく郷に生きた関 寛齋」